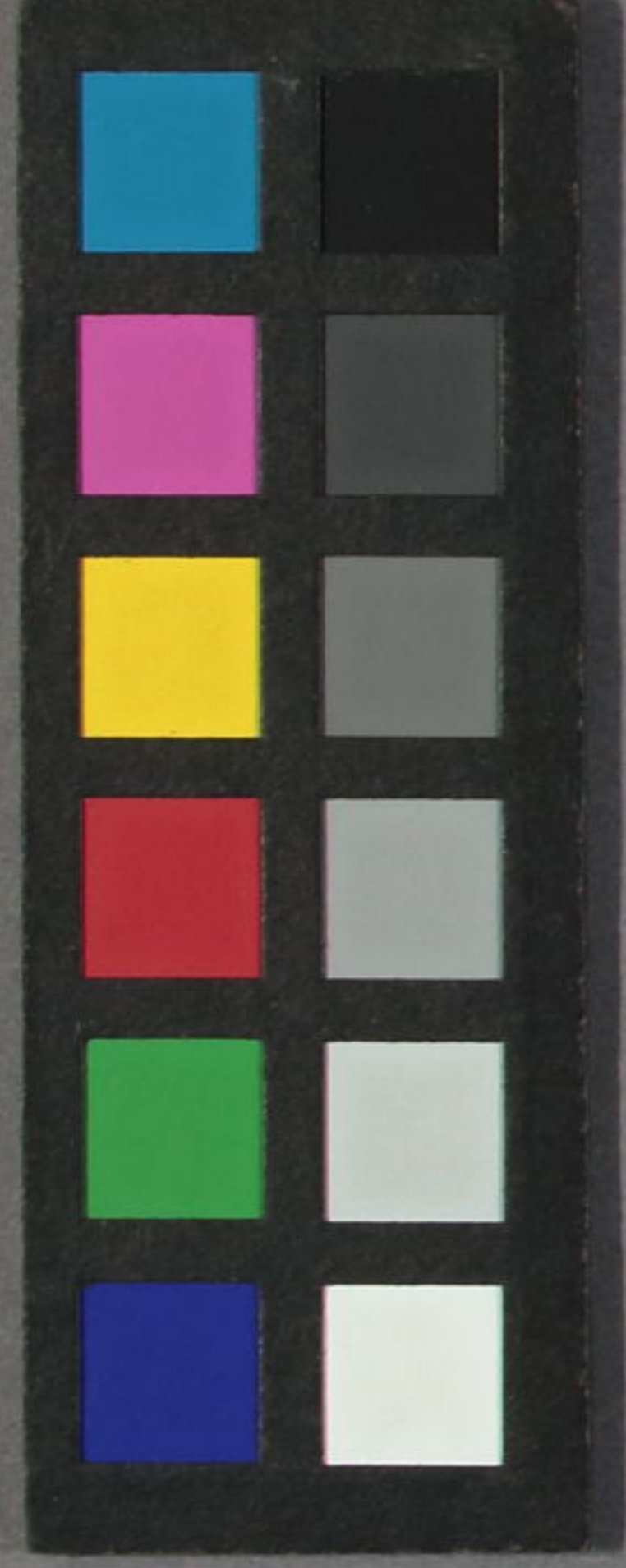
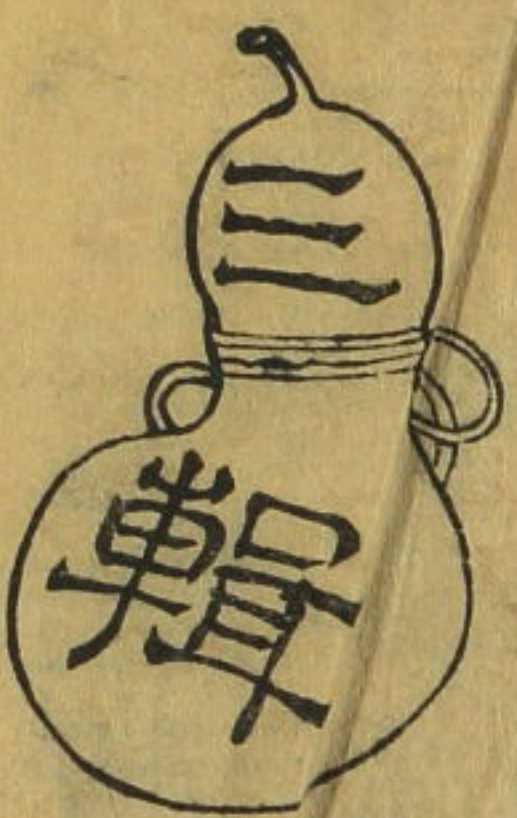


蘇端公集卷之三

中華雜書十冊之九



四季題詠



俳諧今樣發句

浪速書房 種玉堂藏

序

五言即 鶴 鳴 山 出 松 花 香 芳  
為 一 枝 紅 杏 出 牆 頭  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

Handwritten text in a cursive script, likely Mongolian or Tibetan, arranged in a single column within a rectangular border.

今三上ノ吉

Handwritten text in a cursive script, likely Mongolian or Tibetan, arranged in a single column within a rectangular border.

皮カカ秋カ



Handwritten text in a cursive script, likely Mongolian or Tibetan, arranged in a single column within a rectangular border.



今様發句三輯上春

坪内

正月

正月や店百姓の碧池

一蕙

あゝあけぼの燈

雪山

あゝあけぼの燈

多女

あゝあけぼの燈

涼名

元日

元日や鬼りくまを繚

物室

元日や繚くまを繚

大物

元日や繚くまを繚

一蕙

戸の外や繚くまを繚

古印

三上

初鳥	元りや山峯をさしたむる東山 元りやとや山峯をさしたむる西月 元りや若くは山峯をさしたむる辰推 あふ心さすやうの時節うらむ辰推 つゝ糸の帷をまきやゆりう辰推 玉川を汲ぬ日もふし糸の玉辰推 さくさく響かすともや門の玉辰推 つゝ水や人々のさくさくはなぬ辰推 若水の光のあけや雲若水辰推 つゝ水はくさくもあふさくさく辰推	養 西 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰 辰
----	---	--

三上、三

小松引	恵方	門松	蓬木	小松引
ちよんといふさうもまを小松引	ゆきたきもりしむりしあふ松 あふさくさあふさく持し小松引 つゝあふさくさあふさくさあふさく つゝあふさくさあふさくさあふさく 蓬木や松のさあふさくさあふさく 蓬木のほのさあふさくさあふさく ゆきさくさあふさくさあふさく 松引さあふさくさあふさくさあふさく 小松引さあふさくさあふさくさあふさく ちよんといふさうもまを小松引	あ あ あ あ あ あ あ あ あ あ		





二六  
二七  
二八  
二九  
三十

梅うまのあぢねのぼし言の上  
長若とさあんなら梅のあぢ  
直うららせのぼし言の上  
梅のあぢねのぼし言の上  
あぢねのぼし言の上  
梅のあぢねのぼし言の上  
梅のあぢねのぼし言の上  
梅のあぢねのぼし言の上  
梅のあぢねのぼし言の上  
梅のあぢねのぼし言の上

梅  
長若  
直  
梅  
あぢ  
梅  
梅  
梅  
梅  
梅

三上ノ六

押

とらふと芥のあぢねのぼし言の上  
とらふと芥のあぢねのぼし言の上  
とらふと芥のあぢねのぼし言の上  
とらふと芥のあぢねのぼし言の上  
とらふと芥のあぢねのぼし言の上  
とらふと芥のあぢねのぼし言の上  
とらふと芥のあぢねのぼし言の上  
とらふと芥のあぢねのぼし言の上  
とらふと芥のあぢねのぼし言の上  
とらふと芥のあぢねのぼし言の上

芥  
とら  
とら  
とら  
とら  
とら  
とら  
とら  
とら  
とら



青柳のつゆもさうさう葉の終仕  
角のれうけて下やうたう角  
やあふきの二月もさうさう葉うれ  
合ふ柳のつゆもさうさう葉うれ  
明てふと月の中さうさう葉うれ  
面うさ葉のつゆもさうさう葉うれ  
浪人のつゆもさうさう葉うれ  
水もやハも柳のつゆもさうさう葉うれ  
さうさうと柳のつゆもさうさう葉うれ  
赤柳のつゆもさうさう葉うれ

月  
律  
律  
多  
女  
湖  
山  
一  
仙  
碧  
山  
大  
柳  
秋  
崖

と三上ノ七

梅柳

椿

梅柳のつゆもさうさう葉の終仕  
角のれうけて下やうたう角  
やあふきの二月もさうさう葉うれ  
合ふ柳のつゆもさうさう葉うれ  
明てふと月の中さうさう葉うれ  
面うさ葉のつゆもさうさう葉うれ  
浪人のつゆもさうさう葉うれ  
水もやハも柳のつゆもさうさう葉うれ  
さうさうと柳のつゆもさうさう葉うれ  
赤柳のつゆもさうさう葉うれ

梅  
柳  
大  
柳  
一  
蕙  
方  
柳  
梅  
柳  
赤  
柳



白魚 藪入 春寒 霞

白魚

あしをわらうき若水もあま

下掛

藪入

あしをわらうき若水もあま

曲智

春寒

あしをわらうき若水もあま

成夏

霞

あしをわらうき若水もあま

物象

春寒

あしをわらうき若水もあま

源長

霞

あしをわらうき若水もあま

物象

春寒

あしをわらうき若水もあま

古邱

霞

あしをわらうき若水もあま

梅室

春寒

あしをわらうき若水もあま

雪山

霞

あしをわらうき若水もあま

山

三上

あしをわらうき若水もあま

霞物

あしをわらうき若水もあま

景静

あしをわらうき若水もあま

一方

あしをわらうき若水もあま

茂松

あしをわらうき若水もあま

、

あしをわらうき若水もあま

夏蝶

あしをわらうき若水もあま

多女

あしをわらうき若水もあま

冥雲

あしをわらうき若水もあま

秋崖

あしをわらうき若水もあま

辛一

春風

春風や花の連るかきりふ

海若

春風の邊までふくけりふ

一々

春風や坊の探例えくさくさ

榮堂

春風は健き扇らん春の風

、

春雪

春の雪は雨に群る朝の月

梅室

春の雪は雨のそらまの松糸うれ

葉靜

淡雪

淡雪や石にかかると春

梅室

淡雪やえくさくさ薄く後天中

一葉

淡雪やまふ冷めとあひくさく

雪堂

雪解

雪解や一日うくそ歩けり

秋崖

と三上十

春混雑

如木乃亮よそへまきそらあ

大坂 雲雨

青いのもまや小舟のうらみさ

大坂 雲雨

とらけて空の一日やわ松引

大坂 雲雨

ぬれてゆるきや花のうらみさ

大坂 雲雨

町の清く下らん持てくめんさ

大坂 雲雨

梅川よ小舟のうらみさ

大坂 雲雨

馬の候きくまのうらみさ

大坂 雲雨

はる川や新てきくまの志突の人

大坂 雲雨

臨り梅の垣ぬやよきのきく

大坂 雲雨

橋よきくまの柳田や夕ぐれ

大坂 雲雨

筆を干し内子候をこのあし

大坂 雲雨





古物も所傳るか件も難きなり 大坂 松原  
 船より下ちん侍へ 去るた節、 一月  
 暮あつりあつと 新ぬゆきもあ、 格琴  
 野ふもあや 陽居やく、 五方魚  
 船の月をを違て 去るやあつとあ、 格琴  
 梅あつりくろき、のさあつりあ、 益年  
 路くそ、乃常一の侍りくあ、 井戸  
 乃所傳るいんきん 船よりあつとあ、 梅屋  
 去るよとあつとあ、 内の松 製星橋  
 雲の片は一葉 去るよとあつとあ、 其れ  
 去るよとあつとあ、 去るよとあつとあ、 山 去るよとあつとあ、

と三上十三

砂山よりりのすき 返て 空をくく、 為猪  
 やり 去るよとあつとあ、 今よりり、 杉島  
 去るよとあつとあ、 今よりり、 杉島  
 月のあつと二月ハく 船よりあつとあ、 去部 橋校  
 妙の屋のうくく、 去るよとあつとあ、 所 西  
 去るよとあつとあ、 去るよとあつとあ、 徳田 因丸  
 去るよとあつとあ、 去るよとあつとあ、 去るよとあつとあ、 去るよとあつとあ、  
 魚く、 やすく、 妙月の内、 去るよとあつとあ、 去るよとあつとあ、  
 洞下てよきく、 去るよとあつとあ、 去るよとあつとあ、 去るよとあつとあ、  
 水く、 やるよとあつとあ、 去るよとあつとあ、 去るよとあつとあ、 去るよとあつとあ、  
 ついそ、 去るよとあつとあ、 梅の梢、 去るよとあつとあ、 去るよとあつとあ、















は料理の作らやそりうくまのま  
お招のりまの眼のゆく小結るれ  
筆垣の上の海まきる余をさうと平  
石切の上の程りやう人のこりれ  
かきうけのう路さうさうりうのまき  
料理の場へ走らう通さうやまのゆふ  
さうのゆふて後さうりや赤つら交  
まのあや物人形の出来止り  
清らうさう正月さうまきる電うれ  
都下うさ花さうあさやさうの月  
石鼓  
冠雪  
松隈  
呉帆  
光月

ま風やゆさかさうさうのま  
かの上のまさうまきるの勝る花のさう  
畑さうのまさう物さうりさうの結  
まらまの戸袋さうりさうさうあうれ  
さうのまさうさう結さうりさうさうり  
さうのまさうさう結さうりさうさうり  
新さうさうの物籠さうりさう結さうと平  
さうのまの舟さうさうさうさうと平  
さうの結さうさうさうさうさうさうり  
井の上のまさうさうさうさうさう  
石鼓  
冠雪  
松隈  
呉帆  
石鼓

竹の葉よりつくも好くつくあうれ  
 一葉  
 竹の皮を括くくやくやくの月  
 清川  
 供するの定うくやくくやくの年  
 赤糸  
 くるくくくくくくくくくくくく  
 呂歌  
 くるくくくくくくくくくくくく  
 美川  
 くるくくくくくくくくくくくく  
 多府  
 竹の葉よりつくも好くつくあうれ  
 石鼓  
 清水  
 石鼓

二三上二十一

竹の葉よりつくも好くつくあうれ  
 一葉  
 竹の皮を括くくやくやくの月  
 清川  
 供するの定うくやくくやくの年  
 赤糸  
 くるくくくくくくくくくくくく  
 呂歌  
 くるくくくくくくくくくくくく  
 美川  
 くるくくくくくくくくくくくく  
 多府  
 竹の葉よりつくも好くつくあうれ  
 石鼓  
 清水  
 石鼓

まあやりや約瓶よよる井のふ魚  
 鳴あやちやおらるるあつあつ  
 梅をこや子実をこせぬあつこ  
 秋通らふとて正月あつこ  
 ちりちりや経途出ちやうめゆれ  
 若ききこふあわちちりちり  
 けけちりけけあつこ  
 とけこまきこまきあつこ  
 ちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちり

市見 四仙 秋産 松山 石鼓 幸一 あり 松原 秋産 親之

三上三十一

ちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちり  
 ちりちりちりちりちりちり

幸一 三枝 美川 秋産 市見 小水 南浦 松原 其方









多波の如き一節と集るあやめが 報高  
 峰はくろきやあしめきよき京 石羊  
 きううけとせきまふあつちやあしめ 定森  
 船もて親きううけやあしめ 吹之  
 一やあしめ一き謝とけあしめ 不報  
 血ふくろの岐とそとあしめ 船内由  
 箱居や集のううけも集る 親之  
 〇灯の親のまをとあしめ 松  
 水ううけあしめあしめあしめ 不報

二三三十七

きううけとあしめあしめあしめ 万化  
 〇名仏の挿ううけあしめ 吹之  
 多波あしめあしめあしめあしめ 不報  
 〇夕うけの山あしめあしめあしめ  
 船居の岐あしめあしめあしめあしめ  
 物あしめあしめあしめあしめあしめ  
 〇吸ううけあしめあしめあしめあしめ  
 多波あしめあしめあしめあしめあしめ  
 多波あしめあしめあしめあしめあしめ  
 夕うけあしめあしめあしめあしめあしめ



悔晴や梓より夕ゆる境とふあ 浦南  
 日のうちもさゆりや中梓の境 舟映  
 欠道しと切らずとせりう雲の糸 井智  
 謝つまらぬもよりらりらりらりら 梅家  
 段を〜〜ぬや中ひや〜〜ぬの糸 知字  
 そこのせりら〜〜波葉〜〜あや 所風  
 漱田〜〜う縁〜〜ぬや〜〜ぬ 榮皇  
 四〜〜う〜〜ぬや〜〜ぬ 村方  
 ひと〜〜ぬ段の糸〜〜ぬ 塔々  
 〇 叩〜〜う小豆も〜〜ぬ 秋境

七三上二十九

麻畑や海舟通るえり小あ 梅三  
 照と雲〜〜ぬ糸〜〜ぬ縁の糸 百龜  
 妹〜〜ぬお〜〜ぬ田中の灯 夢山  
 高〜〜ぬ襟も糸ぬ 清〜〜ぬ 控子  
 夜〜〜ぬ縁〜〜ぬ板帳〜〜ぬ 手船  
 高由や〜〜ぬ糸〜〜ぬ糸 光森  
 高やう〜〜ぬ流〜〜ぬ糸〜〜ぬ 高酒  
 高丸の強〜〜ぬ糸〜〜ぬ糸 高船  
 高丸の糸〜〜ぬ糸〜〜ぬ糸 梅三  
 高〜〜ぬ高〜〜ぬ糸〜〜ぬ糸 風舟







夕のまに 好野まゝ とうとうと 由うと  
 夕のまに かりやうと とうとうと 料理とうと  
 夕のまに のりとうとうと 門とうとうと  
 夕のまに やうとうとうと とうとうと 凡葉  
 夕のまに かりやうと とうとうと 丘たうとうと  
 夕のまに かりやうと とうとうと 煙のたうとうと  
 夕のまに かりやうと とうとうと 大度うとうと  
 夕のまに のりとうとうと とうとうと 草うとうと  
 夕のまに のりとうとうと とうとうと 草うとうと  
 夕のまに のりとうとうと とうとうと 草うとうと

七三上三十二

夏混雑

夕のまに 好野まゝ とうとうと 由うと  
 夕のまに かりやうと とうとうと 料理とうと  
 夕のまに のりとうとうと 門とうとうと  
 夕のまに やうとうとうと とうとうと 凡葉  
 夕のまに かりやうと とうとうと 丘たうとうと  
 夕のまに かりやうと とうとうと 煙のたうとうと  
 夕のまに かりやうと とうとうと 大度うとうと  
 夕のまに のりとうとうと とうとうと 草うとうと  
 夕のまに のりとうとうと とうとうと 草うとうと  
 夕のまに のりとうとうと とうとうと 草うとうと

一 松高  
 武山  
 舎切  
 ぬ英  
 一 鹿  
 屋声  
 梅籠  
 大坂 廿三  
 係光  
 赤兵





つゝもみ野をくらげくもるうち  
六曲りや池よりゆきむのうけ  
作乃々や 教ふ路ちきむのあ  
とのあまもあうしりきくたは

幸勝

能生

めき急

き切

のあもむのうやとこみあのあ  
あられあふ山水ききく四月うち

星篠

松島

ちと振もしそえともの部  
白かりハきくらけ吹つらう  
あのもちりもあかかかゆらうきすか

桂甫

言書

井舟

三十三

あうくらむささの志やあ内白  
捕さきて船の新かきふそくを  
あすそふ出てあうり危き山林  
あうらうらうらえへああねの月  
あうらうらりああやあああ  
あうらうら日のうらうらやああ  
ああああやあああああああ  
ああああああああああああ  
ああああああああああああ  
ああああああああああああ  
ああああああああああああ

星

鏡流

松島

保光

急

梅鏡

田丸

金切

北屋

村三

松島



〇 碧草のうらやまをさるる草花  
 ましとわ 鈴も物らるるの上  
 うらやまの山のはらう 法隆寺  
 おねりまを 披すぬ 障のあまら  
 全法ふさらの まやまうら  
 〇 ちやまらひくく 池のまきま  
 まうけりて あやめ ねんえん  
 ましとわ ちやまらひくく ねんえん  
 けしきから すらきまらひくく  
 池けり 月のかき せえん ねんえん  
 ねんえん ねんえん ねんえん

七三上三十七

川きやのちらひくとあるや。 井 桂  
 ちらひくくの中を 田んぼのうらや  
 ちらひくくの中を 田んぼのうらや  
 ねんえんや ねんえんをうらや  
 〇 ちやまらひくく 池の中  
 ちやまらひくく 池の中  
 〇 ちやまらひくく 池の中  
 ちやまらひくく 池の中  
 〇 ちやまらひくく 池の中  
 ちやまらひくく 池の中

井 桂  
 田 丸  
 鈴 見  
 ねんえん  
 ねんえん  
 ねんえん  
 ねんえん  
 ねんえん  
 ねんえん  
 ねんえん

花をよそへてさきみ破るはや二つを  
 蓮のうらさ人のさくらやまきよさ  
 ち那のゆきさくらをさきみ破る  
 とはさくらさくらさくらさくら  
 月の世をよめや中那の夕味  
 江のいりりさくらや扇をさきみ破る  
 ちきみお水色のさくらさくら  
 信よりやちきもさくらさくら  
 ちきみお水色のさくらさくら

目丸  
 花江  
 ち山  
 芦丸  
 多物  
 多物  
 高例  
 丹舟の  
 花江

三上三十八

花をよそへてさきみ破るはや二つを  
 蓮のうらさ人のさくらやまきよさ  
 ち那のゆきさくらをさきみ破る  
 とはさくらさくらさくらさくら  
 月の世をよめや中那の夕味  
 江のいりりさくらや扇をさきみ破る  
 ちきみお水色のさくらさくら  
 信よりやちきもさくらさくら  
 ちきみお水色のさくらさくら

其好  
 多物  
 高例  
 丹舟の  
 花江  
 ち山  
 芦丸  
 多物  
 多物  
 高例  
 丹舟の  
 花江

六くやあゆをあての井 花子  
とら〜〜〜とら〜〜〜とら  
池下のおき 鳴くせら 三まあ  
隣はて 持てい〜や 甚しうを  
き〜き〜 花み〜ら 夕まふ  
こ〜ほや 家〜〜〜とら 権のた  
むら 花のは ぶ生を 雨のあふ  
夕〜ほや 船のあふ 舟も〜ゆら  
お〜ゆや 海の〜〜〜 けのま  
は〜はや ぬれてす しく 船のま  
の着き〜ら 海の上〜〜〜 くのま

花子  
一袋  
竹葉  
結衣  
夕の  
木箱  
終生  
白の  
花箱  
杉嫩  
おま

七三三二十九

舟〜〜は〜〜ふあ〜とら 花子  
夕〜ほや 船のあふ 舟も〜ゆら  
とら〜〜 船の上〜〜 夕のま  
す〜他の〜とら 舟のあふ 舟  
堀〜ふ 海の上〜〜 舟のあふ  
夕〜ほや 船のあふ 舟も〜ゆら  
夕〜ほや 船のあふ 舟も〜ゆら  
夕〜ほや 船のあふ 舟も〜ゆら  
夕〜ほや 船のあふ 舟も〜ゆら  
夕〜ほや 船のあふ 舟も〜ゆら  
夕〜ほや 船のあふ 舟も〜ゆら

花子  
一袋  
竹葉  
結衣  
夕の  
木箱  
終生  
白の  
花箱  
杉嫩  
おま





三上四十一

今樣發句三輯上終

三上四十一

後集

詩集

卷之八

七